

山の幸寿司教室

6月18日、道の駅となりの農林産物加工施設を利用して、「山の幸寿司教室」が開催されました。地元の食材を使った寿司を創作することをテーマとして、地域おこし協力隊の佐藤克幸さんが講師となり、食改の皆さんが参加しました。寿司を作るための基本的な魚のさばき方や、厚焼き玉子の作り方を教わったほかに、「わらび」や「フキ」、「漬け物」の海苔巻きを創作しました。わらびを入れた海苔巻きは、食感が良いと大好評でした。寿司と言えば海の幸のイメージですが、地元の食材を生かして山の幸でもおいしい寿司が出来ることに皆さん驚かれています。



東北福祉大学剣道部が地域交流

6月20、21日に旧湯原小学校体育館を主会場にして、東北福祉大学剣道部が主催する第2回東北福祉大杯等争奪剣道大会が開催されました。大会前日には、剣道部員や教職員の方々30名による地域ボランティア活動が行われ、湯原地区内の清掃やゴミ拾い活動が行われました。試合当日は、剣道に親しむ体験の時間も設けられ、見学に来た七ヶ宿小学校の児童と和やかな時間を過ごしました。また、試合には東北高生と仙台商高生のほか、七ヶ宿小学校4年の高橋蘭さんが昨年に続き、大学生・高校生の混合チームの一員として参加し、大会を盛り上げました。体育館周辺の草刈り等、地域をあげての支援もあり、試合会場は20名程の見学者で賑わっていました。剣道大会を契機に、町の遊休施設の利活用促進と地域活性化につながることを期待されています。



プール清掃&プール開き

6月8日、小・中学生と高校生の協力を得て、プール清掃を行いました。午前中に、小学生が更衣室やトイレの掃除をし、中学生は、大量に溜まった落ち葉を集めたり、草むしりをしたりしました。午後からは白石高校七ヶ宿校の生徒がプールの中をブラシで磨いていただき、きれいになりました。気温も上がり、23日には小学校の児童たちがさっそくプールを楽しんでいました。暑い天候の中で、待ちに待ったプールの時間が始まり、とても嬉しそうでした。



東北福祉大学リエゾンゼミ

リエゾンとは、フランス語で「つなぎ・つながり」などを意味しています。



6月17日に東北福祉大学1年生のリエゾンゼミ生16名が、七ヶ宿町地域おこし協力隊の活動状況を学びに訪れました。当日は小雨の降る中でしたが、地域おこし協力隊のアドバイスのもと、りんごの摘果作業を体験し作業の必要性ややり方を学んでいました。

作業後は、峠田の千年塾事務所に場所を移し、地域おこし協力隊員との意見交換会が行われました。学生からは「地域おこし協力隊としてやりがいを感じたときはどんな時か」「がっかりする時、ストレスを感じたときはどうしているか」などの質問があり、地域おこし隊員は「やりがいは住民の方や事業所の方に喜んでもらえたときに感じるし、うまく相手に思いが伝わらない時にはがっかりするときもある」などの意見交換が行われました。

今後もゼミ生は町を訪問し町や地域のサポートのあり方を学び10月の報告会で研修内容を発表する予定です。

